



さかい動物病院
の酒井院長さん
はわいわい子ど
も食堂の当初よ
りご支援してく
ださっています。
先日、十年目に
なることからご
挨拶に伺ってき
ました。
それをきっかけ
にめいほくわい
わい食堂に来て
くださいました。



さかい動物病院の院長さん のフログから

子ども食堂に行ってきました
2025年9月10日「徒然 雑記」

これまで十年間、寄付だけは続けてきました。

要は「お金だけ出して、現場には行かない」という後ろめたさが、どこかにありました。

開催日が水曜日だから、仕事を休んでまで行けない——そう言い訳してきたのです。

ところが先日、実行委員の方が挨拶に来られ、その瞬間に意識が変わりました。

「現場に足を運んでみたい」

「偉そうに視察するのではなく、ど

つぶり参加してみたい」

そんな気持ちが自然と湧き上がったのです。

そして今日。患者さんにはご迷惑をおかけしましたが、午後の診療を臨時休診にして参加しました。

老若男女、さらには留学生まで、みんながボランティアとして集い、和気あいあいと活動していました。

その輪のなかに、初心者の方も混ざって一緒に動く。

行く前から「躊躇せず積極的に」と心に決めていました。

——魂の洗濯。

まさに、そんな言葉がぴったりの体験でした。

来月も行きたい。

みなさん許してくれますか？

さよならお元気で！ そしてありがとう



名古屋大学医学部大学院に留学生のラオスのソークさん、カンボジアのマニラさんは、昨年の12月から毎回のようボランティアとして参加してくださいました。

この9月末で留学期間が終了し、帰国されます。

帰国後もどうかお元気で活躍されることを願っております。

お別れの記念にボランティアみんながメッセージを書き、寄せ書き集にして送りました。

お別れのメッセージ

皆さま、こんにちは。

私の名前はソークサワンと申します。ラオス出身で、現在は名古屋大学で学んでおります。昨年12月から、子ども食堂のボランティアに参加させていただくという大変光栄な機会をいただきました。本日はここでの最後の日となります。今月29日に卒業し、その後、母国へ帰国する予定です。

皆さまに心より感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ここでのボランティア活動は、私の人生において最も意義深い経験の一つでした。ほんの少しでも貢献できたことを誇りに思い、そして皆さまからいただいた温かさ、優しさ、美味しい食事に深く感謝しています。これらの思い出と経験は、私の心に永遠に残ります。子ども食堂を通して、日本の文化だけでなく、思いやりや優しさ、人を助け支え合う大切さを学ぶことができました。これらの学びは私にとってかけがえのない宝物であり、ラオスに持ち帰りたいと思います。帰国後も、自分の地域社会で人々を支える機会を探し続けたいです。コロナ禍の際には、母親や子どもたちに向けた情報を発信するFacebookページを立ち上げました。今後はさらに新しいプロジェクトを展開していきたいと考えており、その際にはぜひ皆さまにも共有したいと思います。

いつの日か、再び日本を訪れ、子ども食堂に伺えることを心から願っています。私を温かく迎えてくださり、支えてくださり、この素晴らしいコミュニティの一員として受け入れてくださったこと、本当にありがとうございました。

